

Massive Open Online Course

STARTUP
PACKAGE

コース開講をお考えの先生向け

概要

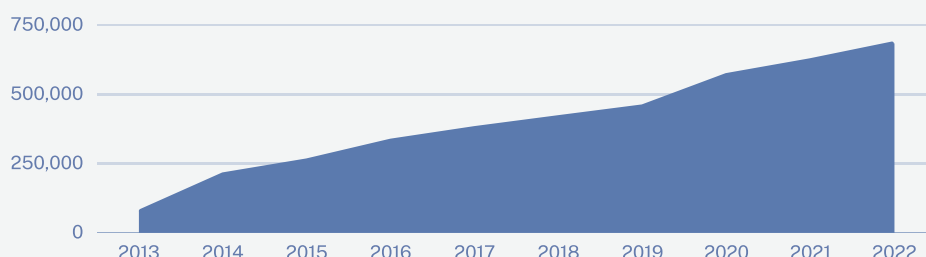
MOOCとは

大規模公開オンライン講座（MOOC = Massive Open Online Course）は、オンラインで誰でも無償で利用できるオンライン講座を提供するサービスです。希望者には有料で修了証を提供しています。

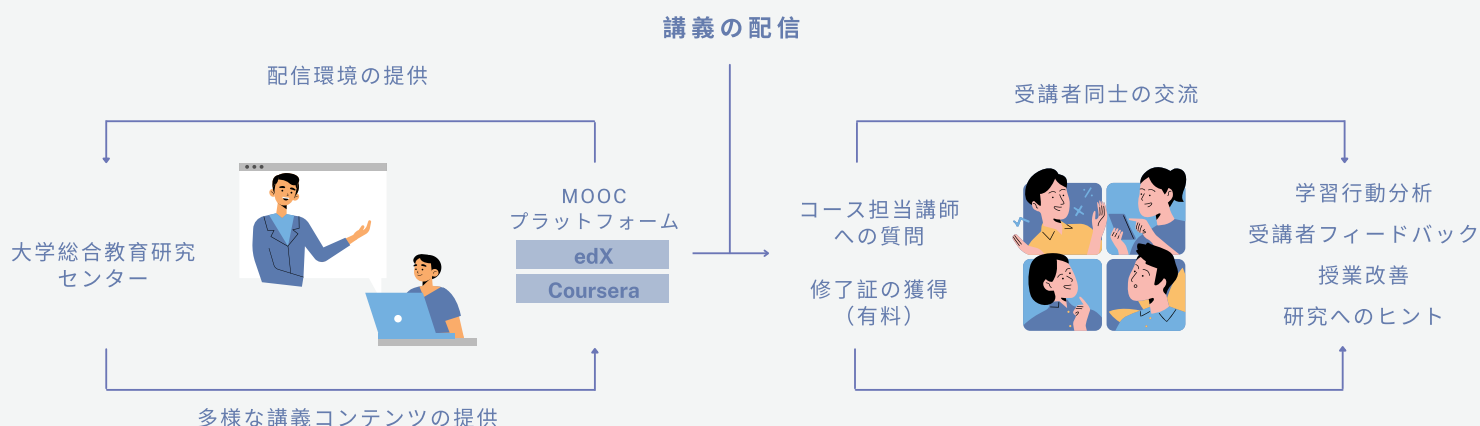
東京大学では、MOOCの代表的なプラットフォーム「Coursera（コーセラ）」や「edX（エデックス）」に参加して、オンライン講座を配信しています。

東大のMOOCは主に英語のオンライン講座をグローバルに配信することを目的に制作されています。日本初の試みとして、2013年9月にオンライン講座開発を開始以降、2023年5月現在で全22コース（Coursera 10コース、edX 12コース）を提供してきました。

新型コロナの影響や世界情勢の不安定化が要因となり、オンラインで学ぼうとする人々の人口は年々増えており、東大MOOCの受講者も増加し続けています。



以下に、東京大学大学総合教育研究センターとプラットフォームサイト、登録者（学習者）との関係を簡単に記します。



MOOCの活用方法 とメリット

M ASSIVE

世界中の学習者にリーチ

東大が参加するedXとCourseraには約1億3千万人の登録者がいます。

- 東大の研究や教育に関心がある層にアプローチします
- 優秀な留学生の獲得、産学連携、海外大学との教育研究連携などに発展する可能性があります
- ディスカッションフォーラムでは世界中の学習者が交流します
- 学習者のディスカッションの集積は価値あるbig dataです

O PEN

無料で登録できます

学習者はMOOCに登録後、講義ビデオの視聴やディスカッションフォーラムへの投稿ができます。

- ※ edXでは一部有料コースがあります。
- ※ Courseraは13歳以上が登録可能です。

O NLINE

オンラインならではの強み

オンライン環境が整っていれば、時間と場所を選びません。

C OURSES

ニューノーマル時代の教育ツール

右に、国内外における活用事例をいくつか紹介します。

1 MOOCコースの一部を授業の視聴覚教材として、事前事後学習の素材として活用 (例: 東京工科大学など)

- 全モジュール中の数モジュールのみを授業の教材・課題として活用
- 特定の動画に絞り、授業中の視聴覚教材として利用

2 リメディアル教育の素材として活用 (例: 大阪産業大学など)

- 前提知識の確認素材として、入学直後にMOOCを活用
- 専門課程への進級時や大学院進学時に、基礎知識の確認と定着ツールとしても活用できる

3 MOOCの修了証による知識の証明 (例: オープンバッジや、企業研修など)

- MOOCでは、試験を受けて合格し、一定の料金を支払うと修了証を得ることができる
- これらのスキルや能力を小さな単位で証明するmicro-credentialsやオープンバッジ制度がコンピテンスの証明書として活用されている

4 Flipped Classroomの素材として活用 (※ 正規の東大の単位が出る授業とは関係ありません)

- MOOCのコース動画を視聴した後に、対面イベントや対面セッションで理解を深める活用方法
- 対面セッションの事前事後学習素材としてMOOCの動画視聴やクイズやレポート課題を課す方法

5 フルオンラインでの単位化 (※ 正規の東大の単位が出る授業とは関係ありません)

- 海外では、MOOCコース(800以上)を使った単位認定が行われており、MOOCをベースとした修士プログラムも70以上存在する[1]

6 - (マイナス) 0.5年次教育としての活用 (※ 正規の東大の単位が出る授業とは関係ありません)

- 海外では、大学授業の先取りツールとしてMOOCが使われている

[1] Shah, et. al. (2022). [2022] 800+ Online Courses with Real College Credit that You Can Access for Free. Class Central. Retrieved June 1, 2022, from <https://www.classcentral.com/report/free-for-credit-moocs/>

よくある質問

01 誰に向かって講義をするのですか？

各プラットフォームに登録した学習者に対して講義を配信します。
東京大学が参加するedXとCourseraには世界中から学習者が集まっています。

02 学習者の規模はどのくらいですか？

新型コロナの影響や世界情勢の不安定化が要因となり、オンラインで学ぼうとする人々の人口は年々増えており、MOOC全体で2億2000万人の学習者がいると言われています[2]。2021年度まで、東京大学が参加するedXでは13万人、Courseraでは49万人が201カ国・地域から学習者として登録しています。

03 東大OCWとは何が違うのですか？

OCW (Open Course Ware) は通常授業のオンライン公開を目的として行われているプロジェクトです。そのため動画の長さは教室で行われる通常授業と同じで、講義動画や資料をそのまま公開しています。一方、MOOCは、オンライン学習に特化し開発が行われているため、学習者が集中しやすい時間(10分程度)の動画と知識を確認するためのクイズやレポートの組み合わせで構成されています。

学習者同士が意見交換を行うディスカッションフォーラムや受講生同士の相互評価(ピア・レビュー)のような双方向性のある活動が行えるのも特徴の1つです。また、規定の水準をクリアし、料金を支払うとコース修了証を獲得することが可能です。

04 GACCO (日本版MOOC) とは何が違うのですか？

gaccoは日本国内の学習者をターゲットにしていますが、MOOCは全世界の学習者へのアプローチを念頭におき制作されます。また、東大MOOCが参加するedXやCourseraでの配信言語は基本的には英語です。授業の素材としてインタビューや現地の取材動画を折り込む場合はこの限りではなく、日本語で行われる対話やインタビュー部分には英語の字幕をつけて配信します。Courseraに関しては、ボランティアの翻訳チームがプラットフォーム側についており、人気講座の場合、英語以外の字幕をつけてもらえることがあります。

05 授業配信したい教員はだれでもコース開発が可能ですか？ コースの内容は、どのようなものでもよいですか？

東大MOOCは全学事業であるため、各教員が所属する部局内で「MOOCコース開発への参加」にご承認いただくようお願いしております。コースの内容は、質保証の観点から、企画段階に大総センターにて簡易な審査を行います。コース開発が決定した後も、教員と大総センターのスタッフでコースのデザイン、動画の撮影方針、評価方法などを相談しながらコース制作を行います。

06 英語を使った講義の経験が豊富ではないのですが.....

講義のスクリプト原案(英語)をいただければネイティブチェックは、一定額大総センターで費用を負担します。詳細はお問い合わせください。

プロンプターを用いて口頭スクリプトを表示させながら撮影することも可能です。プロンプターを用いることで、不自然な方向に視線がいく心配がございません。

開講前の準備

動画の撮影

通常授業の1回分程度の分量を1セットとして90分から100分の動画を4-6セット分撮影します。講義動画の撮影に、大総センターのスタッフが協力します。

- 屋内の撮影は大学内メディアスタジオを使用します。およそ2-3日間で撮影は終了します。
- 屋外での撮影など高度な撮影・編集技術を要求されるものに関しては、専門業者に協力してもらうことがあります。
- 既存の動画をご提供いただくことも可能です。MOOC用に大総センターで編集します。

講義スライドの作成

講義スライドに使用する図表については、著作権処理が必要です。

講師ご自身で著作権処理を行った場合はその旨、大学総合教育研究センターに申告していただく必要があります。

著作権処理が済んでいないものについては、大学総合教育研究センターのサポートのもと、共同で著作権処理を行います。

クイズの作成

Practice Quiz（復習のための練習問題）40問程度、Graded Quiz（成績評価問題）40問程度をご準備いただきます。

画像の挿入やルビ振りなどクイズに特別な処理が必要な場合は、大総センターにてサポート致します。

コースアイコンの作成

コースのシンボルとなるアイコンを作成します。講師の皆様の要望を確認しMOOCユニットが作成します！

講師プロフィール作成

顔写真と簡単な経歴をMOOC上のプロフィールとして掲載します。

大学総合教育研究センターでも、クイズの作成や講義スライドの作成サポートが可能です。それぞれの科目の専門的観点からの作業が必要となるため、TAをつけていただくことを推奨しております。



ロードマップ

01 キックオフミーティング

- 動画の構成・撮影方法などの打ち合わせ

02

コース設計（フレーム）の決定

- コース構成のご提案
- 資料収集
- 著作権処理開始
- 講義用パワーポイントの作成（任意）
- 英語台本の作成
（任意：撮影時にプロンプターで表示させる場合は英語台本が必要になります）

03

ビデオ収録・編集

- 講義ビデオ、Promotional Video収録
（※両方で2～3日）

04

MOOCサイトに載せる資料の準備

- 詳細シラバスの作成
- 評価基準の作成
- クイズ・最終試験の作成
- 学習者用参考資料一覧の作成（任意）
- 用語集の作成（任意）

05

コースのセットアップ

- ビデオ、資料のアップロード
- プラットフォーム側の動作、最終チェック

06

コースページの作成

- コースアイコンの準備
- 受講要件の準備
- 講師写真、講師経歴の準備



コース一覧

2023年10月現在

edX

<https://www.edx.org/school/utokyox>

- Basic Analytical Chemistry
- Contemporary Japanese Society: What Has Been Happening Behind Demographic Change?
- Four Facets of Contemporary Japanese Architecture: City
- Four Facets of Contemporary Japanese Architecture: Humans
- Four Facets of Contemporary Japanese Architecture: Technology
- Four Facets of Contemporary Japanese Architecture: Theory
- Sustainability Science - A Key Concept for Future Design
- Tokyo Hillside, Tokyo Riverside: Exploring the Historical City
- Transnational Studies - Japan and the World
- Visualizing Postwar Tokyo, Part 1
- Visualizing Postwar Tokyo, Part 2
- Quantum Mechanics of Molecular Structures

Coursera

<https://www.coursera.org/utokyo>

- FoundX Startup School Course
- From the Big Bang to Dark Energy
- Global Health Policy
- Interactive Computer Graphics
- Interactive Teaching
- Let's Read! Learning Japanese through Science and Technology -1
- Let's Read! Learning Japanese through Science and Technology -2
- Studying at Japanese Universities
- Welcome to Game Theory
- Words Spun Out of Images: Visual and Literary Culture in Nineteenth Century Japan

講師一覧

Robert Cambell 邱亮達 Hannah Dahlberg-Dodd Michael Facius 古市由美子 Stuart Gilmour 羽田正 長谷川克也 堀田昌英
五十嵐健夫 板津木綿子 角征典 神取道宏 北村友人 工藤尚悟 隈研吾 栗田佳代子 Marcin Pawel Jarzebski 味埜俊 村山顕人
村山齊 西浦博 小淵祐介 小貫元治 小澤岳昌 渋谷健司 白波瀬佐和子 武内和彦 田中俊徳 寺田徹 馬田隆明
矢口祐人 山内薫 横張真 吉見俊哉



MOOC
The University of Tokyo

CONTACT US

Administration Bureau Building II
7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033 Japan
Tel: + 81-3-5841-2461
Email: moc@he.u-tokyo.ac.jp
Web: <https://www.he.u-tokyo.ac.jp/>